



エコで行こ!!やすぎ 第34号 (2025年3月19日発行)

# こども編集者が見た！ 環境を守るやすぎの取り組み

発行：安来市環境政策課 ☎0854-23-3098  
協力：安来市地球温暖化対策地域協議会

## 当協議会について

安来市地球温暖化対策地域協議会 会長 松本一郎  
(国立大学法人島根大学 教授)



みなさんご存じのとおり、地球の平均気温は上昇し続けています。日本では「地球温暖化対策の推進に関する法律」にもとづき、各地で温暖化対策の地域協議会がつくられています。安来では2009年度に設立されました。行政だけでなく、市民、事業者等が連携して協議すること、地域密着型の対策を実践することが大切です。今年度も普及啓発活動を中心に実践してきました。その一部ではありますが、本紙面をお借りし紹介します。



安来市地球温暖化対策地域協議会 (第8期) メンバー

## こども編集者による「エコで行こ!!」を初めて発行

安来市環境政策課 環境対策係長 永島美奈子  
(安来市地球温暖化対策地域協議会 事務局長)



安来市では、環境保全などに関する情報発信のため「エコで行こ!!やすぎ」を不定期で発行しています。今回は、市や協議会が行う取り組みに参加したり、興味を持ったりした「こども編集者」のみなさんと一緒に作成しました。ぜひご覧ください。

## 私が興味を持っている環境問題

私は夏休みに絶めつきぐ種について調べました。今地球上で、動物達は生命の危機にひんしています。例えば、オランウータンは人間のすみかの開たくにより、すみかがなくなり絶めつきぐ種に指定されています。また、アフリカゾウは世界で決められた決まりを無視してたくさんころされています。それは、きばなどが高く売れるため、人間の生活をゆたかにすることが目的です。調べてみると、全部人間の生活のゆたかさのために動物がころされていることがわかりました。人間は、王様だと思いました。パンダも同じ様に人間のすみかのかく大や地球温暖化によって、数がへっていましたが、生息地の保護や施設での保護など人間の取り組みにより、数が回ふくしてきています。人間が、相手を思いやれる様に動物達に対しても思いやりをもって「共に生きれる世界を！」という思いで描きました。

### 環境イラストコンテストとは？

環境問題への意識向上のため、市内小学4年生から中学3年生までを対象に毎年開催しています。今年度は「SDGs」のテーマで合計1,255点の応募がありました。高野さんは、小学4年生の部で最優秀賞を受賞されました。



記事を書きました！

飯梨小学校 4年 高野ひより

## どじょうすくいロボコンに出場しました

ぼくはプログラミングが好きだったので、どじょうすくいロボコンの出場を決めました。ぼくがロボットを組み立てるときに工夫したところは、電池ケースと基盤をバランス良くいい感じに乗せたことです。車検で通るように、サーボモーターと輪ゴムでザルが上を向くようにして、捨うときに広がるようにしました。プログラミングで大変だったことは、コースに沿ってロボットを進めるためにセンサーの色の数値をプログラミングで調整することです。どじょうをすくってちゃんとUターンさせるために、回転する秒数を何回も走らせて微調整をしました。情報科学高校で試走会をしたけれど、当日の会場の照明が違うので数値を微調整しました。予選敗退で終わってしまったけれど、他の選手のデザインや動き方を見てすごいと思いました。大会が終わったあとに環境フェアの展示を見て回りました。どの展示も楽しかったです。

### どじょうすくいロボコンとは？



親子で地球温暖化などの環境問題について考えるきっかけ作りとして開催しました。エントリーした小学生が、地球温暖化で上昇した水中のどじょう(を模したボール)をゴールまで救出するロボットを作ってプログラムし、大会でその腕を競いました。



記事を書きました！

母里小学校 5年 蒲生武

## 家族で取り組みたいエコドライブ

10月27日、家族で「やすぎ環境フェア2024」へ行きました。そこで、エコドライブシミュレーターを体験しました。体験するのは2回目で、今回は1人でやりました。

このエコドライブは、自動車から出る二酸化炭素(CO2)排出量を減らし、地球温暖化の防止につなげる運転の仕方を実際に体験しながら考えるというものです。私は、とてもゆっくり運転していたうえに、ウインカーを出すことをすっかり忘れていました。その理由は、運転の仕方、急発進・急加速・急ブレーキに気をつけていたことと、環境に優しい運転を考えるとということに集中しすぎていたからです。

それから、環境フェアの会場には、水素で走る車が展示されていました(写真右上)。普段の車とは少し違う雰囲気がありました。家族みんな興味津々でした。また、クイズコーナーがあり、クイズをやってみてわかったことは、ガソリンで走る車とは違って、水素の車は二酸化炭素を出さないことが良いということです。

これからの未来に、環境に優しい車が、少しずつ増えていくといいなと思っています。

お父さんお母さんにも環境に優しい運転をしてほしいと思うし、私もこれから車の免許を取るようになったら、気をつけて運転していきたいです。



記事を書きました！

広瀬小学校 6年 須山璃咲

## やすぎ版SDGsすごろくを製作！

みなさんはSDGs（エスディー・ジーズ）をご存じですか？ Sustainable Development Goalsの略で、日本語では「持続可能な開発目標」と訳します。簡単に言うと、2030年までに世界が達成したい17個の目標のこと。「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」「気候変動に具体的な対策を」などの目標がありますが、少しむずかしいですね。そこで、国連はSDGsについて学べるすごろく「ゴー・ゴールズ」を製作しました。僕たちも体験してみたのですが、少し日本語訳が変だったり、情報が少し古かったりしました。そこで、安来市地球温暖化対策地域協議会の野々村委員のお力も借りながら、安来版のSDGsすごろくを作ることになりました。

作る際に工夫した点は、誰でも理解できるように問題カードの難しい言葉を簡単な言葉に変えたことです。作成前はSDGsについて名前を聞いたことがある程度で、安来市の取り組みについてもあまり知りませんでした。しかし、問題カードを作成し最新のデータに変える過程で世界のSDGsや安来市の取り組みについて学べてよかったです。

作ったすごろくを、1月に小学校で実施させていただきましたが、子どもたちが楽しくSDGsについて学べたと言っていたので、作ってよかったと思いました。この活動を通して何かをやるうとしてそれを実現することの難しさがわかり、それに必要な行動力を少しでも身につけることができました。



✎ 記事を書きました！

安来高校 2年 安部竜馬  
安来高校 2年 石森逞



## 夢は水路でイルミネーション

10月14日、下山佐交流センターで行われた「ミニミニ水力発電親子体験教室」に参加しました。ペットボトルを切ったり、ビニールテープをはったりして水車を作るワークショップでした。お母さんと弟といっしょに、一つの水車を作りました。ペットボトルを使って、工作みたいに作るのが楽しかったです。

火力や風力など他の発電のしかたに比べて、はいきガスが出ないし、あまり場所をとらないという説明を聞いて、これがエコにつながるとわかりました。

みんなが作った水車を持って、近くの用水路に置いて回してみました。自分たちのも思ったより早く回ったけど、ペットボトルの底を半分残している人たちのほうが早く回っていました。作り方を変えると、回り方が早くなったりしていました。

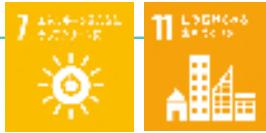
今は、小さい水車で小さい光しか光っていないけど、もっと大きくして、じっさいにもっと使えるようになればいいと思いました。例えば、いっしょにやっていた地いきの人たちは、クリスマスのイルミネーションが光るといいと言われていました。

エコな活動で、ペットボトルをたくさん使ってやるのはいいのかなと思いました。エコな活動や勉強ができてよかったです。実現されてぼくたちの未来につながってほしいです。



✎ 記事を書きました！

広瀬小学校 6年 石田敢太郎



安来市地球温暖化対策地域協議会 安藤かおり委員

「こども編集者」のみなさんから良い記事が出そろいましたね！  
そういえば、この「エコで行こ!!」、これまで紙で発行してきたけど、環境への影響ってどのくらいなんでしょう？

安来市地球温暖化対策地域協議会 太田敬二事務局



近頃はデジタル化が進み、広報手段も多様化していますね。市内の学校でも、保護者への連絡にICT※を活用するケースが増えています。紙には紙、デジタルにはデジタルの良さがあり、それを知ったうえで上手に使いたいですね！  
「エコで行こ!!」を紙で発行した場合の環境への影響、特に二酸化炭素排出量について、私も知りたいところです。

※市内の小中学校では、保護者への連絡にICTツール「Google Classroom」が使われています。

## そんな大人の疑問に、リケジョ中学生が応えてくれました！

### 紙の広報物の二酸化炭素（CO2）排出量を推計してみました

①紙1枚あたり（A3用紙、両面印刷）のCO2排出量は？

・紙をつくる時（製紙）…約13.06g  
・両面印刷するとき…約20.68g  
CO2排出量は、あわせて約**33.74g**。

②市内に全戸配布するため13,000枚印刷した場合は？

13,000枚×33.74g=438,620g。  
エコで行こ!!第34号発行にあたってのCO2排出量は、約**438kg**。

③樹木は光合成によりCO2を吸収するが、438kgを吸収するのに何本の樹木が必要？

林野庁によると、スギの木1本が1年間に吸収するCO2は約8.8kg。エコで行こ!!第34号の発行にあたり排出された438kgのCO2をすべて吸収するには、約**50本のスギが必要**。

結論！

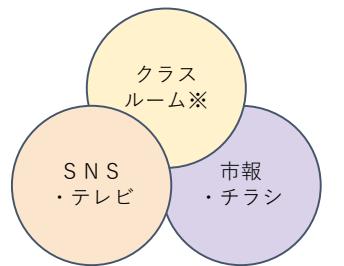
紙の広報物（今回はA3用紙、両面印刷、13,000枚で計算）のCO2排出量は438kgで、これを吸収するには**スギの木50本が必要**と推計しました！

### SNSで情報発信してみても？

紙の代わりにSNSやどじょこテレビなどで発信することで、CO2の排出を減らすことができます。また、情報発信という観点でも、幅広い年齢層に届けることができそうです。

### CO2排出量を計算してみてどうだった？

私はこの機会を通して、環境についてしっかりと考えることができました。今回得た結果は、達成期限まであと5年となったSDGsの目標15「陸の豊かさも守ろう」などにも有用だと思います。私の計算を通して、一人でも多くの人が環境やエコについて考える機会となればうれしいです。



イラストと記事を書きました！

第一中学校 3年 下山華蓮



約8.8kgのCO2を吸収

酸素 (O2) を放出

$$438\text{kg} \div 8.8\text{kg} = 49.77\text{本}$$

(今回の推計は輸送によるCO2を含んでいません)